

「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【富里小学校】

令和3年5月27日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている内容に基づく。 〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと	C
算数	学習指導要領第2章第3節算数における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

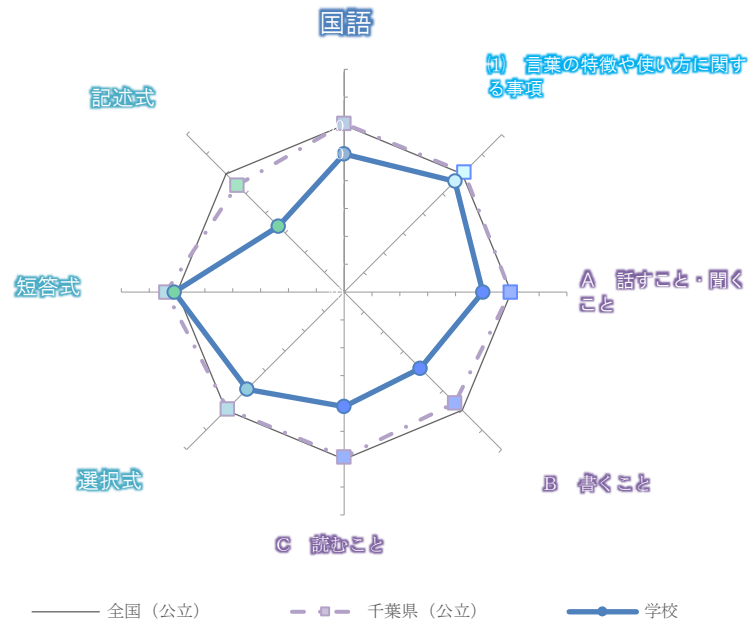
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



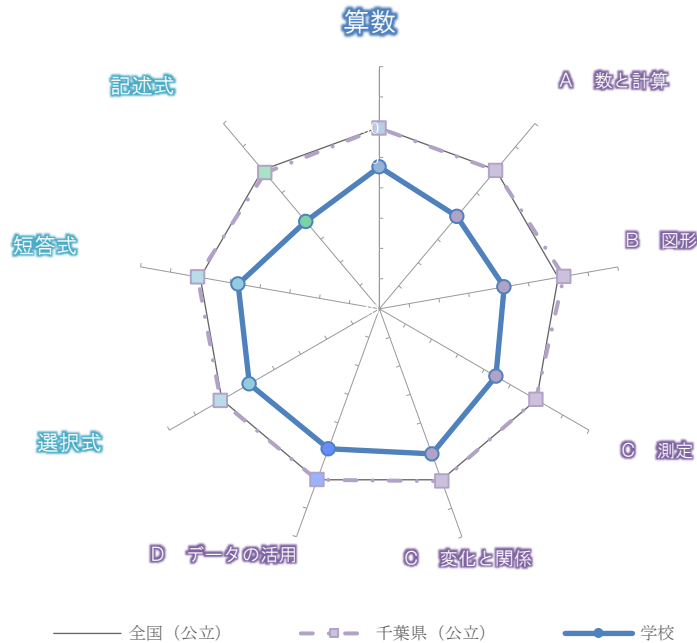
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 文章の中にある言葉を漢字に書き直す問題「転がって」「積み」では、正答率が全国平均を上回りましたが、「原因」は、全国平均を下回りました。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、正答率が下がっています。目的や意図に応じ、資料を使って話したり、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えたりすることに課題があります。
- 「書くこと」では、目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。
- 「読むこと」では、資料を読み、中心となる語や文を見つけて要約することに課題があります。
- 「短答式」の形式の正答率は、全国平均を上回りましたが、「記述式」の形式においては大きく下回っています。無回答率も高くなっています。

【改善方策等】

- 漢字練習やドリル学習などを通して、漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適切な言葉を選択したりする力が身に付くように指導してまいります。
- 「話すこと・聞くこと」については、国語科の学習だけでなく、他教科等においても適宜指導してまいります。具体的には、自分が伝えたいことが明確になるように構成を考えた話し方や、話し手の意図を理解するための聞き方を継続して指導してまいります。
- 「読むこと」については、毎朝、読書の時間を確保しています。様々な事柄に興味関心が向くようにしたり、目的意識をもたせたりしながら、引き続き読書活動を推進してまいります。
- 「書くこと」については、各教科の授業において、書くという場面を設定し、どのように書けば読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。継続した指導を大切に、教師による添削も行ってまいります。

算 数



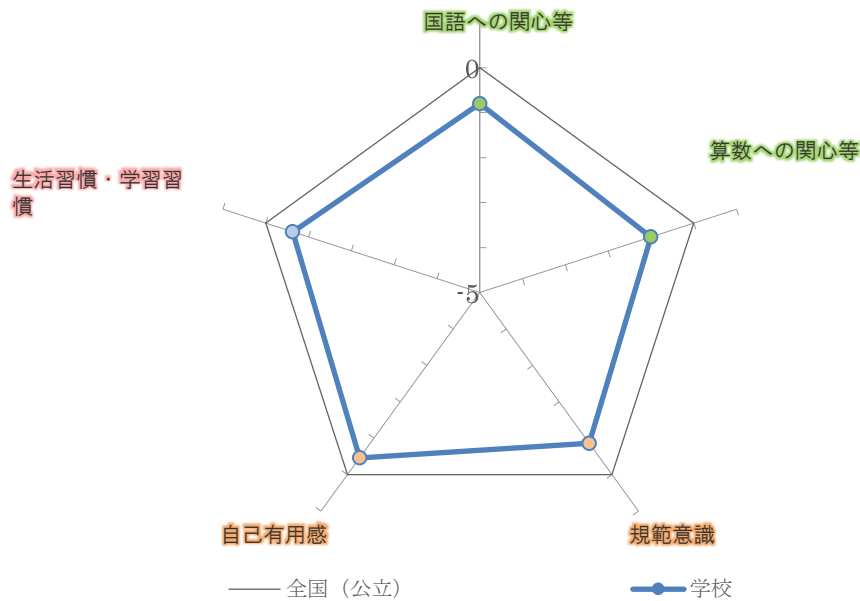
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題は、正答率が 90%を超え、また、速さと道のりを基に時間を求める式に表す問題は、正答率が 80%を超え、全国平均に近い正答率となりました。
- 二つの道のりの差の求め方を記述する問題や、商が 1 より小さくなる等分除（整数） \div （整数）の場面で、数量の関係を捉えて除法の式に表し計算する問題で、全国平均を大きく下回りました。「数と計算」の領域にも課題が見られます。
- 直角三角形や複数の図形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める問題は、全国平均を大きく下回りました。「図形」の理解に課題が見られます。
- 「記述式」の形式において、全国平均と比較して正答率が大きく下回っています。また、無回答率が高い傾向にあります。

【改善方策等】

- これからもドリル学習や「とみの国」検定の練習などを通して、基礎・基本的な問題が確実に理解できるように努めてまいります。
- 問題文から場面の状況を読み取る力が必要です。国語と同様に文章を読んで要点を正しく読み取る力を付けて行きます。問題文からわかることを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるように指導してまいります。
- 様々な領域に課題がありますが、図形や速さ、割合など、児童の理解を深めるために、視覚資料を有効に活用し、指導の工夫・改善を行ってまいります。
- 「記述式」の問題に課題が見られました。思考の過程を表現する方法が身に付くように指導していきます。特に、児童同士が考えを交流し、深め合う活動にも積極的に取り組んでまいります。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「国語」「算数」とともに勉強が「好き」と回答している児童の割合は、全国平均を下回っています。指導方法の改善に努め「わかる授業」を目指し、児童の学習意欲を高めていきます。
- 「将来の夢や目標を持っている」「友達と協力するのは楽しい」「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っています。このことから、充実した学校生活を送っている児童が多いことが分かりました。
- 「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っています。学習中に「わかる・できる」という自信が持てるようにしていきます。
- 「毎日同じ時刻に寝ている・起きている」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っています。また、「1日当たりどれくらいのテレビゲーム（コンピュータ・スマホを使ったゲームも含む）をするか」という質問では、「4時間以上」と回答している児童の割合は、全国平均より約15%多い結果でした。生活習慣の見直しも必要です。

3 まとめ

学校においては、引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させてまいります。特に、「書く力」を付けるためには、継続した指導が必要です。また、学校生活全般において、友達同士がお互いを大切に思い、認め合う雰囲気をつくれるように努め、自己肯定感を高められるようにしていきます。

正答率の高い児童は、「テレビゲーム（コンピュータ・スマホを使ったゲームも含む）をする時間が短い」「やると決めたことはやり遂げる」「読書時間が長い」「学習で分かった点、分からなかった点の見直しをする」などで肯定的な回答が見られました。家庭での生活・学習習慣も学力に関連があると考えられます。ご家庭でも、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」「テレビゲームの時間」など、規則正しい生活習慣が身に付けられるよう、引き続きご支援をお願いいたします。